

平成 23 年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2013

甲州市教育委員会

平成23年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2013

甲州市教育委員会

序

甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡（黒川金山）の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成23年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。23年度は3ヶ所の遺跡について試掘調査等を行っています。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

平成25年3月31日

甲州市教育委員会
教育長 保坂 一仁

例言

- 1 本書は、平成23年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
- 2 事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
- 3 事業の期間は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までである。
- 4 本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

凡例

- 1 本書中、各遺跡の位置図は国土地理院発行の1/25,000地形図を、調査対象範囲図は1/2,500甲州市都市計画基本図を改変して使用した。
- 2 縮尺、方位等は各図中に示してある。

目次

序

例言・凡例・目次

第1章 遺跡の所在確認業務について	1
第2章 発掘調査等について	1
第3章 発掘調査等の概要	2
第1節 事業費	2
1 事業経費収支予算書	2
2 事業経費収支精算書	3
第2節 発掘調査等	4
1 宇賀屋敷遺跡	4
2 殿林遺跡	10
3 五反田遺跡	14
抄録・奥付	

第1章 遺跡の所在確認業務について

平成23年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

保坂一仁 甲州市教育委員会教育長
山中 宏 教育委員会生涯学習課長
小野正文 生涯学習課文化財指導監
飯島 泉 生涯学習課文化財担当リーダー
雨宮 亨 生涯学習課文化財担当
入江俊行 生涯学習課文化財担当

開発計画に伴う遺跡の所在確認と、不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、23年度は209件を数えた。内訳は、開発計画に伴うもの160件、不動産鑑定に伴うもの49件であった。

第2章 発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第93条及び94条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会での立会いとし、3件については試掘調査を実施した。そのうち、本格調査が必要と認められた宇賀屋敷遺跡、五反田遺跡については発掘調査を実施することとした。五反田遺跡については、財団法人山梨文化財研究所に調査を委託し、平成25年度に発掘調査が行われる予定である。宇賀屋敷遺跡については、甲州市教育委員会が平成23年4月12日～5月31日まで調査を行っており、平成24年度中に報告書が刊行される予定である。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者 飯島・雨宮・入江

発掘調査・整理作業員 雨宮久美子・栗原礼子・沢登淳子・萩原里江子・深沢茂子・止木なつ子

第3章 発掘調査等の概要

第1節 事業費

1 事業経費収支予算書

収入の部

	金額	備考
国庫補助金	1,350,000円	2,700千円の50%
県費補助金	675,000円	2,700千円の25%
甲州市負担金	675,000円	
計	2,700,000円	

支出の部

	金額	備考
報償費	0円	
旅費	0円	
賃金	1,600,000円	発掘100日×7,000円、整理150日×6,000円
需要費	564,500円	
消耗品費	65,000円	ピンボール、脚立、コンテナ他
印刷製本費	499,500円	22年度報告書1,500円×300冊×1.05
役務費	0円	
委託料	0円	
使用料及び賃借料	535,500円	重機借り上げ31,500×17日
計	2,700,000円	

2 事業経費収支精算書

収入の部

(上段：予算額 下段：精算額)

	金額	備考
国庫補助金	1,350,000 円	2,700 千円の 50%
	1,350,000 円	
県費補助金	675,000 円	2,700 千円の 25%
	675,000 円	
甲州市負担金	675,000 円	
	675,000 円	
計	2,700,000 円	
	2,700,000 円	

支出の部

(上段：予算額 下段：精算額)

	金額	備考
報償費	0 円	
	0 円	
旅費	0 円	
	0 円	
賃金	1,600,000 円	発掘 134.5 日 × 7,000 円、整理 144.5 日 × 6,000 円
	1,808,500 円	
需要費	564,500 円	
	341,389 円	
消耗品費	65,000 円	ピンボール、脚立、コンテナ他
	141,485 円	
印刷製本費	499,500 円	22 年度報告書
	199,500 円	
役務費	0 円	
	4,200 円	
委託料	0 円	
	0 円	
使用料及び賃借料	535,500 円	仮設ハウス借上げ 94,815 円、重機借上げ 451,500 円
	546,315 円	
計	2,700,000 円	
	2,700,000 円	

第2節 発掘調査等

1 宇賀屋敷遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山下於曾字宇賀屋敷 1026 番 4
- (2) 調査面積 約 216㎡
- (3) 調査原因 個人住宅建設に伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成 23 年 4 月 12 日～平成 23 年 5 月 31 日
- (5) 調査結果

調査地は、西側に塩山中学校が隣接し、東側は平成 4 年に発掘調査が行われた塩山南児童センターに隣接する。その時の発掘調査成果によれば、竪穴住居跡 6 軒、掘立柱建物跡 1 軒、土坑 1 基を検出しており、平安時代の集落跡と考えられている。

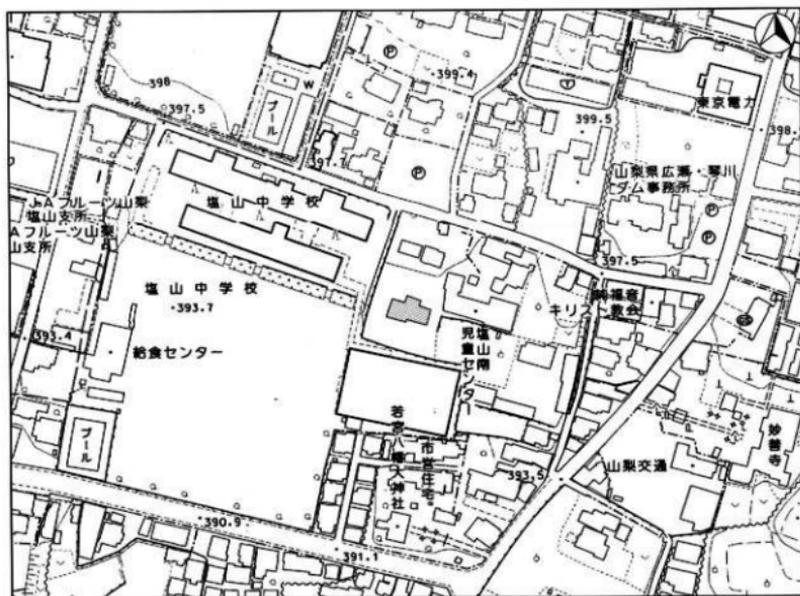
当初、工事範囲内に長さ 10m、幅 1m のトレンチを設定し、遺跡の有無を確認したところ、約 60cm 掘り下げた地点で、土器片などの遺物と複数の遺構を確認したため、住宅建設工事により遺跡が破壊される範囲、約 216㎡を対象に記録保存を目的とした調査を行った。竪穴住居跡 2 軒、溝 4 本、土坑 3 基、畝状遺構 3 本、小穴 5 2 基である。

調査の結果、竪穴住居跡が 2 軒（1・2 住）検出したことから、当該地点が東側に隣接する塩山南児童センター地点で発見された集落の一部であることが確認された。また、1・2 溝は住居跡よりも時代が降り、出土遺物は少ないが、溝底面より出土した常滑産陶器片の存在から中世以降の溝と考えられる。集落廃絶後に土地利用の仕方や区画などにも変化が起ったものとみられる。

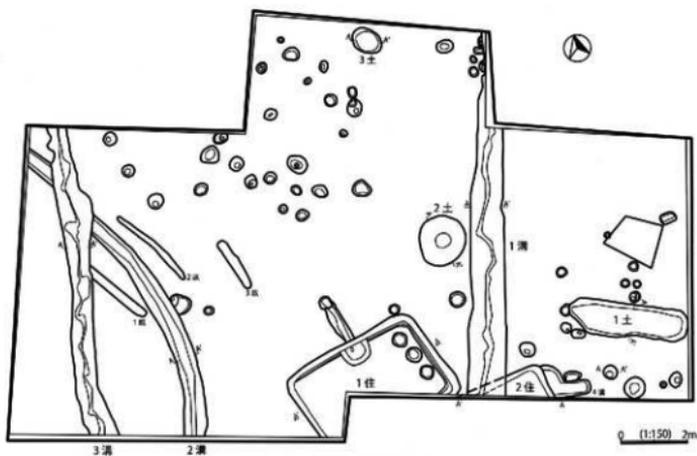
当該地の字名は宇賀屋敷と呼び、その周囲は於曾屋敷、田辺氏屋敷、風間氏屋敷など中世城館に囲まれている環境にある。今回の調査によって発見された遺構は、平安～中世の遺構であり、当地における平安時代の集落の存在と、その集落廃絶後の土地利用の変化を窺い知ることができる発見であったといえる。



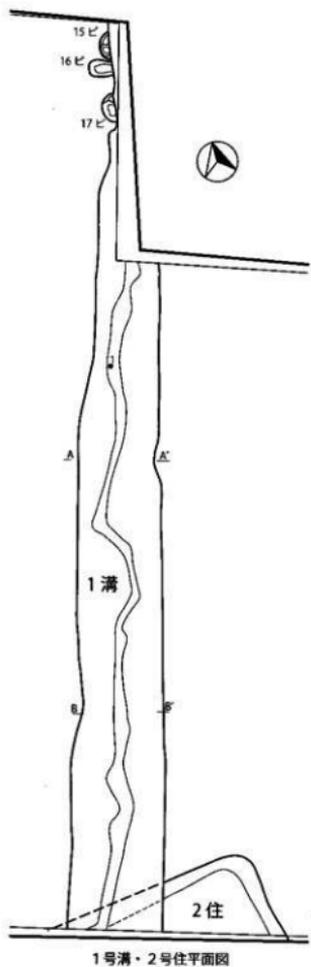
宇賀屋敷遺跡位置図



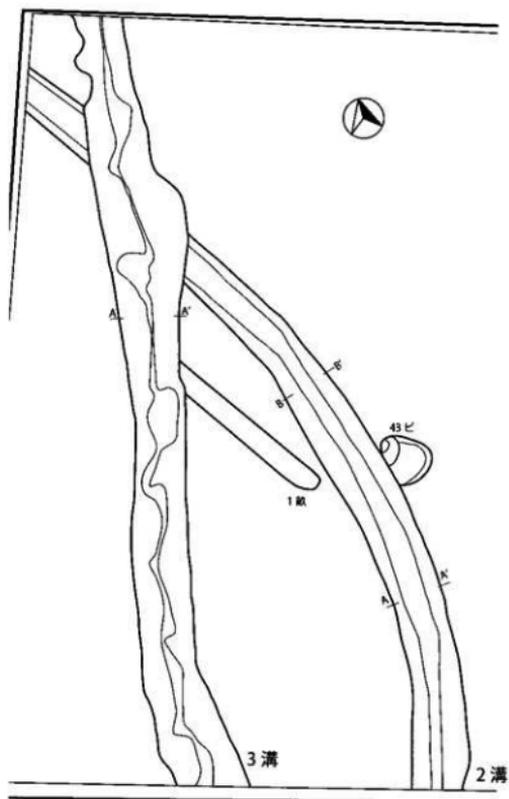
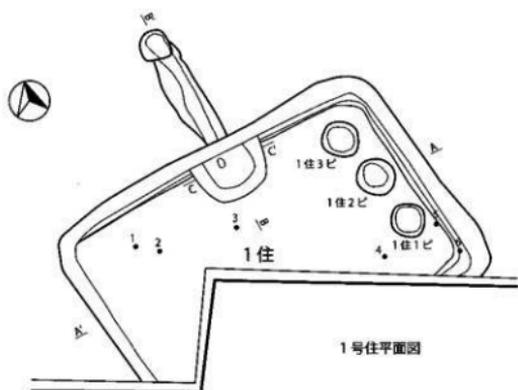
宇賀屋敷遺跡調査対象範囲図 (1/2500)

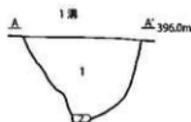


宇賀屋敷遺跡遺構配置図



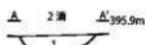
0 (1:60) 1m





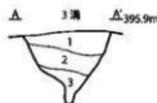
1溝 A-A' 土層説明

1. 暗褐色土層 砂質。しまりややあり。粘性ややあり。ローム粒微量含む。
2. 灰褐色砂層 しまり強い。粘性弱い。細がい砂礫により構成される。



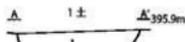
2溝 A-A' 土層説明

1. 暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。



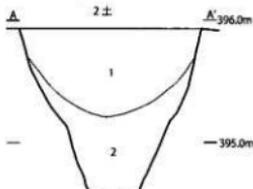
3溝土層説明

1. 暗褐色土層 砂質。しまりあり。粘性あり。ローム粒微量含む。
2. 暗褐色土層 砂質。しまりややあり。粘性あり。ローム粒微量含む。1層よりやや明るい。
3. 暗褐色土層 砂質。しまりややあり。粘性あり。ローム粒少量含む。



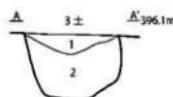
1土土層説明

1. 暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒やや多く含む。



2土土層説明

1. 暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。ロームブロックを多く含む。
2. 黒褐色土層 しまり強い。粘性強い。底面付近で砂礫を少量含む。



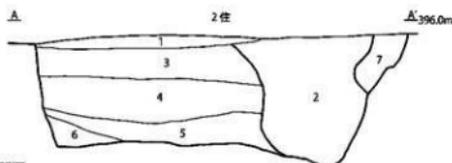
3土土層説明

1. 暗褐色土層 しまり強い。粘性あり。砂礫を少量含む。
2. 暗褐色土層 しまり強い。粘性強い。砂礫を少量含む。焼土粒微量含む。



1住土層説明

1. 暗褐色土層 しまり強い。粘性あり。ロームブロックを多く含む。焼土粒微量含む。白色粒子(砂?)微量含む。
2. 黒褐色土層 しまり強い。粘性あり。ロームブロックを含む。
3. 黒褐色土層 しまり強い。粘性あり。ロームブロック少量含む。
4. 暗褐色土層 しまり強い。粘性強い。ロームブロックを多く含む。
5. 暗褐色土層 しまり強い。粘性強い。ロームブロックを多く含む。
6. 暗褐色土層 しまり強い。粘性あり。ロームブロック含む。



2住土層説明

1. 暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒微量含む。
2. 暗褐色土層 1号溝底土。砂質。しまりややあり。粘性ややあり。ローム粒微量含む。
3. 黒褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒・焼土粒微量含む。
4. 暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。ローム粒含む。
5. 暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。ロームブロックを多く含む。
6. 暗褐色土層 しまりあり。粘性あり。炭化粒微量含む。
7. 3層に依る。

0 (1:40) 1m



調査前風景



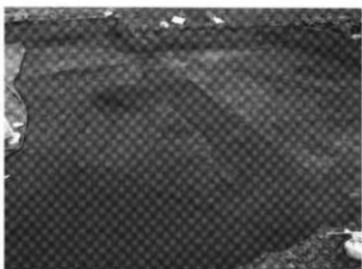
表土掘削



遺構検出作業



遺構検出①



遺構検出②



作業風景



1号住土層断面



1号住調査風景



1号住カマド断面



1号住カマド完掘



調査区全景（東から）



調査区全景（西から）



2・3号溝



1号溝



1号住完掘

2 殿林遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山上萩原殿林 208-1 の一部、208-4、208-5、209-4、209-5
- (2) 調査面積 約 24㎡
- (3) 調査原因 高齢者デイサービス施設建設に伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成 23 年 9 月 9 日
- (5) 調査結果

施設が建設される予定地内に 2 本のトレンチ（試掘坑）を設定し、重機による掘削の後、人力による遺構確認調査を行った。

調査区西側に設定した A トレンチは長さ約 10m、幅約 1.2m で、トレンチ幅を拡張した部分では幅 2.4m を測る。遺構確認面までの掘削深度は約 10cm と非常に浅い。遺構確認の結果、風化礫の混じるローム面上で土坑 2 基、小穴 5 基を検出した。土坑はサブトレンチを入れて部分的に調査したところ深さ 10cm で底面に達し、小穴も 10cm 程度で底面に達した。遺物はいずれも出土していない。覆土は表土と似たしまりの弱い暗褐色土である。

調査区東側に設定した B トレンチは長さ約 10m、幅約 1.2m で、遺構確認面までの深さは約 30cm を測る。A トレンチ同様にローム面をもって遺構確認面として調査したが、現代の攪乱（ゴミ穴）以外、遺構を見出すことは出来なかった。地山のロームに風化礫が多量に混在しており、同地点で遺構を構築するには、悪条件となったであろうことが推定できる。遺物は出土していない。

以上のように、施設建設予定地内に 2ヶ所のトレンチを設定し調査を行ったが、時代・性格の判定できる遺構を検出することは出来なかった。A トレンチでは土坑・小穴を検出したが、いずれも非常に浅く、遺物も出土しなかった。覆土も表土と非常に似ているため、現代のものである可能性が高い。また、遺構確認面までが 10cm と非常に浅く、隣接する北側の舗装された空き地が盛土して形成されていることから、調査地点は過去に削平されたことが窺える。遺構確認面までが非常に浅いこと、遺構の残りが悪いこと、遺物が 1 点も出土しないことも過去に行われた削平を原因としたものと推定される。

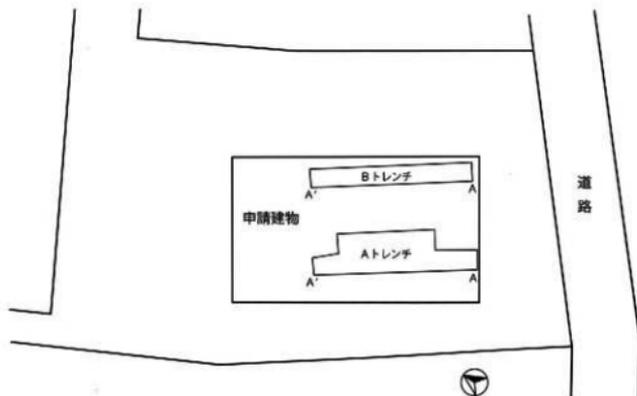
このような条件下にあるため、遺構と考えられる掘り込みはみられるものの、残存状態も悪く、調査対象とするような中世以前に遡る遺構・遺物の検出もみられないため、本調査は実施しないこととした。



殿林遺跡位置図



殿林道跡調査対象範囲図 (1/2500)



調査区配置図



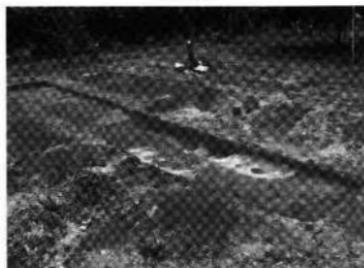
調査前風景



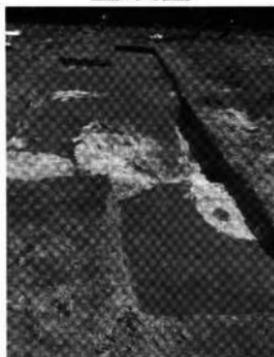
調査風景



重機による整削



Aトレンチ断面



Aトレンチ遺構確認状況



Bトレンチ遺構確認状況



Bトレンチ断面

3 五反田遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山熊野字横井 516
- (2) 調査面積 約 103.8㎡
- (3) 調査原因 店舗建設に伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成 24 年 3 月 13 日～平成 24 年 3 月 31 日
- (5) 調査結果

調査区のすぐ西側には塩山バイパス（国道 411 号線）が南北に走っており、その建設に伴って調査された五反田遺跡が存在する。その時の発掘調査成果によれば、古墳時代～平安時代の竪穴住居跡が検出しており、集落跡の存在が確認されている。

当該敷地内に遺跡が存在するか確認するため、3ヶ所のトレンチ（A～C）を設定し調査を行った。

A トレンチは約 30m × 1.2m で設定し、地表下約 90cm で地山とみられる自然堆積層を検出し、遺構確認を行った。その結果、溝 1 本、ピット（小穴）2 基を検出した。溝（1号溝）は幅約 3.3m、南北に走る溝であるが両端はトレンチの外に延びる。深さは確認面から約 50cm を測り、壁面はゆるやかに立ち上がる。平安時代の土師器片が出土している。

B トレンチは約 29m × 1.2m で設定し、地表下約 1.1m で土器片や焼土が面的に広がる部分を検出したため、重機による掘削を停止し、人力による遺構確認作業に切り替えた。その結果、複数の竪穴住居跡、溝 1 本、ピット 1 基を検出した。竪穴住居はトレンチの西端に位置し、遺構を掘削していった結果、3軒の重複が考えられた。B トレンチ内で最も明瞭に検出できたのは 2号住で、3号住、4号住はほとんどが調査区外に延びるため詳細は不明である。2号住は東側に石組のカマドを持つ竪穴住居で 1 辺が 3.1m 以上、カマドの煙道は南面断面で確認した結果、約 1.6m の長さを測る。床面は貼り床とみられる粘土層が一部残存しており、掘り方で深さは約 15cm である。遺物の出土量も今回の調査の中で一番多く、土師器、須恵器が出土しており、平安時代の住居跡と考えられる。

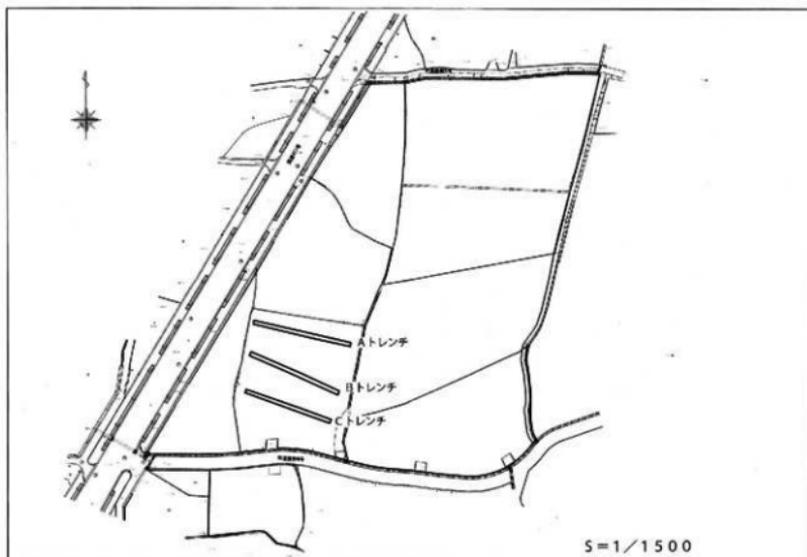
C トレンチは約 27.5m × 1.2m で設定し、地表下約 90cm で地山と考えられる地層面を検出し、遺構確認を行った。その結果、竪穴住居跡 1、ピット 2 基を検出した。住居跡（1号住）は 1 辺が約 4.4m 以上の規模を持つことが推定される。確認面からの深さは約 50cm を測り、壁面はやや緩い立ち上がりである。遺物は土師器を主体とし、平安時代の住居跡と考えられる。



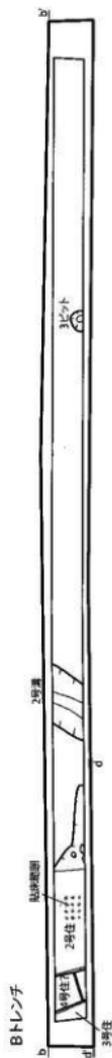
五反田遺跡位置図



五反田遺跡調査対象範囲図 (1/2500)

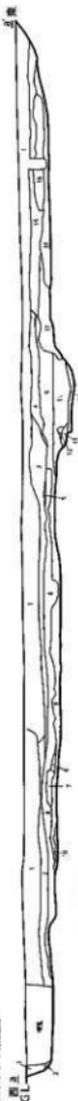


調査区配置図



0 (1:140) 2m

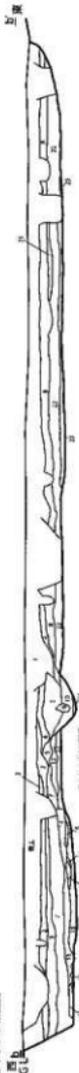
A トレンテ新断面



8 トレンテ新断面

1. 西点
2. 第一号貯水池
3. 第二号貯水池
4. 第三号貯水池
5. 第四号貯水池
6. 第五号貯水池
7. 第六号貯水池
8. 第七号貯水池
9. 第八号貯水池
10. 第九号貯水池
11. 第十号貯水池
12. 第十一号貯水池
13. 第十二号貯水池
14. 第十三号貯水池
15. 第十四号貯水池
16. 第十五号貯水池

B トレンテ新断面



8 トレンテ新断面

1. 西点
2. 第一号貯水池
3. 第二号貯水池
4. 第三号貯水池
5. 第四号貯水池
6. 第五号貯水池
7. 第六号貯水池
8. 第七号貯水池
9. 第八号貯水池
10. 第九号貯水池
11. 第十号貯水池
12. 第十一号貯水池
13. 第十二号貯水池
14. 第十三号貯水池
15. 第十四号貯水池
16. 第十五号貯水池

C トレンテ新断面



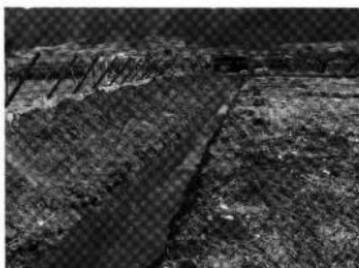
8 トレンテ新断面

1. 西点
2. 第一号貯水池
3. 第二号貯水池
4. 第三号貯水池
5. 第四号貯水池
6. 第五号貯水池
7. 第六号貯水池
8. 第七号貯水池
9. 第八号貯水池
10. 第九号貯水池
11. 第十号貯水池
12. 第十一号貯水池
13. 第十二号貯水池
14. 第十三号貯水池
15. 第十四号貯水池
16. 第十五号貯水池

0 (1:1,000) 20m



表土掘削



Aトレンチ (西から)



Aトレンチ遺構確認 (南東から)



Aトレンチ1号溝 (北東から)



Bトレンチ (西から)



Bトレンチ遺構確認 (西から)



Bトレンチ 焼土遺構? 検出 (南から)



Bトレンチ 2号住遺構検出 (南から)



Bトレンチ 2号溝検出 (南から)



Bトレンチ 2号溝完照 (北東から)



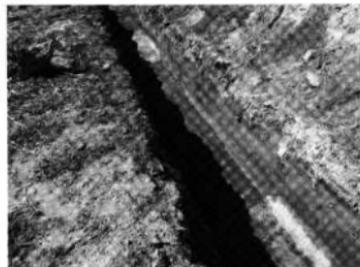
Bトレンチ 2号住遺物検出 (南から)



Bトレンチ 2号住カマド断面 (北から)



Cトレンチ (西から)



Cトレンチ 1号住検出 (南東から)



Cトレンチ 1号住遺物検出 (南東から)



作業の様子

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ
書名	平成 23 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 14 集
編著者名	飯島泉・雨宮亨・入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒 404-8501 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1 電話 0553-32-5097
発行年月日	平成 25 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因	
			北緯	東経				
うがやしさいせき 宇賀屋敷遺跡	こうしゅうしんさんざんしんがわ 甲州市塩山下於曾 遺跡番号 1026 番 4	19213	塩 47	35° 42' 7"	138° 43' 45"	平成 23 年 4 月 12 日～5 月 31 日	約 216㎡	住宅建設
いんりん 殿林遺跡	こうしゅうしんさんざんかみ 甲州市塩山上萩 原字殿林 208-1 の 一 部、208-4、 208-5、209-4、 209-5	19213	塩 152	35° 43' 28"	138° 45' 48"	平成 23 年 9 月 9 日	約 24㎡	高齢者デイ サービス施 設建設
ごたんたいせき 五反田遺跡	こうしゅうしんさんざんがく 甲州市塩山熊野字 横井 516	19213	塩 30	35° 41' 34"	138° 43' 55"	平成 24 年 3 月 13 日～3 月 31 日	約 103.8㎡	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宇賀屋敷遺跡	集落	平安・中世	竈穴住居跡・溝・土坑・畝状遺構・小穴	土師器・須恵器・灰釉陶器・陶器・石器・銅製品	長い煙道を持つ竈穴住居跡を検出。
殿林遺跡	集落	縄文時代	小穴	なし	
五反田遺跡	集落	平安	竈穴住居跡・溝・土坑・小穴	土師器・須恵器・石器	B トレンチ 2 号住居跡から多量の土師器片が検出された。

山梨県甲州市
平成 23 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書
2013
編集 甲州市教育委員会 生涯学習課
山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1
0553-32-5097
発行 甲州市教育委員会
平成 25 年 3 月 31 日
印刷 株式会社 峡南堂印刷所

